

ずいひつ No.132

2018年5月25日発行

覚えていますか？ 幼少期に読んだ本

皆さんは、幼少期に絵本、本を読んだ記憶がありますか？家の人に買ってもらい一緒に見たり、読んでもらったり・・・。

私が一番覚えているのは、母に読んでもらった『てぶくろをかいに』（新美南吉文、若山憲絵 ポプラ社）と小学校1年生の時に担任の先生に読んでもらった『大どろぼうホツェンプロツ』（オトフリート・プロイスラー作、中村浩三訳 偕成社）です。

『てぶくろをかいに』は、母ぎつねが、寒い冬に子ぎつねのために手袋を買ってやりたいけれど、以前、人間に怖い思いをさせられた記憶から、一緒に行くことができず、子ぎつねに手袋を買いに行かせるお話です。片方の手は人間の手にして、きつねだとばれない様に買いに行かせるのだけれど、子ぎつねは間違えて反対のきつねの手を出してしまいます。人と動物との関係について深く考えさせられるお話です。その絵本を読んでもらったのは、何十年も前であるけれど、きつねが間違えて手を差し出しているページが今でも鮮明に浮かんできます。母の声のトーン、部屋での状況も浮かんできます。



『大どろぼうホツェンプロツ』は、小1の時、担任の先生に何回かに分けて読んでもらいました。このお話は、二人の少年が泥棒に大切なものを盗まれてしまい、それを取り返しに冒険に出かけるお話です。表紙を見ると、当時のワクワクとした気持ちを思い出します。先生の名前は忘れてしまったのに、その時の本と教室の風景は消えない記憶として今も色あせず残っています。音楽もそうですが、心に残る場面は、その時の思い出とともに人の中で生き続けているのではと私は思っています。

新しい生活が始まり、新しい友人、新しい課題、夢、抱えきれないぐらいたくさんものを手にしている春だと思いますが、加速しながら進んできた春の疲れが出る頃ではありませんか？ふと立ち止まり、ゆっくりと読書をしたり、昔懐かしい絵本をパラパラとめくってみたりして、心をリセットする時間をつくってみてはいかがでしょうか？



長く読まれている絵本・人気の絵本を少し紹介・・・



左から『からすのパンやさん』（かこさとし文・絵 偕成社）、『三びきのやぎのがらがらどん』（マーシャ・ブラウン絵、瀬田 貞二訳 福音館書店）、『もこもこもこ』（谷川俊太郎文 元永定正絵 文研出版）、『キャベツくん』（長新太文・絵 文研出版）、『どんどこももんちゃん』（とよたかずひこ文・絵 童心社）

覚えている絵本はありましたか？

図書館にも読みきれないぐらいたくさんステキな本があります。専門書、問題集、教科書だけでなく、小説、エッセイなど読書のためにもぜひ図書館へ足を運んでください。ステキな出会いがきっとありますよ！

(絵本と RUN が好きな司書)